



平成 28 年 5 月 26 日

各 位

会 社 名 古河電池株式会社  
代表者名 代表取締役社長 徳山 勝敏  
(コード番号 6 9 3 7 東証第 1 部)  
問合せ先 取締役常務執行役員 高久 繁  
(TEL. 045-336-5034)

### 中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 3 月期決算を踏まえ、このたび平成 29 年 3 月期（2016 年度）から平成 31 年 3 月期（2018 年度）を計画期間とする中期経営計画「2018 年中期ビジョン(2016-18 年)」を策定致しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 本中期経営計画の位置づけ

当社グループは、2009 年に長期経営ビジョンである「Dynamic Innovation 2020」を策定致しました。この 2020 年長期経営ビジョンの実現へ向け、2013 年に前中期経営計画「2015 年中期ビジョン（2013-15 年）」を策定し実行してまいりました。海外での新会社設立による影響を受けたものの、概ね目標を達成することができました。つきましては、長期経営ビジョンの実現をより確実にするとの位置づけにて、改めて今回の中期経営計画を策定致しました。

#### 2. 2018 年中期ビジョン(2016-18 年)における基本方針

- 2020 年長期経営ビジョン実現に向けた重要な期間との認識に基づき、多岐にわたり積極的な事業拡大運営に取り組む。
- 2016 年からの 5 年を「打って出る 5 年間」と位置づけダイナミックに成長を目指す。
- 「事業拡大による売上増」「効率化、合理化による利益率増」「海外拠点拡大による海外比率増」この 3 点をキーワードとし、スピード感を持って実行する。

#### 3. 各事業セグメントにおける重点課題

- 自動車電池事業
  - ✓ 国内における生産体制と販売体制の再構築
  - ✓ 新たな製造方法を適用した製品の拡大によるコスト競争力と品質競争力のアップ
  - ✓ 環境対応車向け電池の量産本格化による競争力アップ
  - ✓ SFC（タイ）の生産体制増強と現地での開発体制強化
  - ✓ FIBM（インドネシア）の早期事業拡大
  - ✓ タイ、インドネシアに続く次の事業展開の検討

- 産業機器用電池事業
  - ✓ 再生可能エネルギー活用分野を中心とした、国内の新市場への取組強化
  - ✓ 国内生産拠点への投資による品質競争力、コスト競争力のアップ
  - ✓ 東南アジア市場を中心とした海外インフラ市場での販売強化

4. 主要な数値目標（連結ベース）

- 経営数値目標

	15年度実績	18年度目標	15年度比
売上高	541億円	800億円	+259億円
海外売上高比率	33.1%	53.1%	+20pt
営業利益	29億円	60億円	+31億円
営業利益率	5.3%	7.5%	+2.2pt

- 財務指標目標

	15年度実績 16年3月末	18年度目標 19年3月末	15年度末比
総 資 産	504億円	600億円	+96億円
有 利 子 負 債	115億円	120億円	+5億円
自 己 資 本 比 率	36.5%	45.0%	+8.5pt
D / E レ シ オ	0.6倍	0.4倍	△ 0.2
ROA(営業利益ベース)	5.8%	10.0%	+4.2pt

- 設備投資金額

	2016-18年計画
合計(3年間累計)	160億円
国内事業分野	60億円
海外事業分野	100億円

以上

(注意事項)

本資料には、当社の将来における売上高・利益等の業績に関わる計画や見通しが含まれております。これらは、当社が現時点にて把握、入手可能な情報からの判断および想定に基づく見通しを前提としており、実際の業績等は大きく異なる場合があることを予めご了承下さい。